

住民の皆さんができること、行政に望むことについて意見交換しました。

	住民ができること	× (かける)	行政にしてほしいこと
災害への備え  ・マンションの備蓄は大切である ・耐震化等の日々の準備は大事である ・中学生は色々な意見や考えていることもあると思うため、中学生と一緒にこの地震について考えていくことが大事である ・地域の危険な場所を把握する ・地域での空家の状況を把握する			・中央地区の浸水域内には病院が多いため、医療施設の維持確保が大事である ・地域の地震についての研修会 ・行政が災害対策した上で地域住民に対策したため安全であるということを示す ・特に所有者がわからない空家の対策をする 
被災時の助け合い 	・復興計画を速やかに作成するためにも、平時からの地域コミュニティの強化が必要である ・行政と地域のつながりが大事である ・ワークショップを含めお互いが話し合うことが大事である	自助・共助・公助	・長期避難した時の為にも、各種登録申請はオンラインでできるようになると便利である ・災害対応してくれる窓口があればよい 
復興まちづくり 	・地域住民が地域のことを把握する ・事前に町内会での住民の意見集約することが大事		・小中学生に復興について知ってもらうため、防災学習等を行う ・親が仕事に行けるように、保育園など1日でも早く開けるようにする ・復興時の工程を住民に伝えることが大事であるため、地域の勉強会をすべきである ・被災後は自分の事で精一杯になってしまうため、事前に地域の意見を聞くことは大事である

●お知らせ

ホームページ上に掲載した「意見投稿プラットフォーム」でも意見を募集していますので、気軽にご回答ください。



●お問い合わせ先

高知市 防災政策課 事前復興まちづくり担当
TEL : 088-823-9055 FAX : 088-823-9085
Mail : kc-080200@city.kochi.lg.jp

高知市 事前復興 まちづくり ニュース VOL.2

R 8. 8. 25

中央地区 事前復興まちづくり計画 第2回ワークショップ (江陽地区) を 開催しました！

地域の方
14名参加

意見交換1は2ページ、意見交換2は3ページ、ワーク4は4ページに表示しています。

7月8日（水）、高知市保健福祉センターで、中央地区事前復興まちづくり計画第2回ワークショップ（江陽地区）を開催しました。意見交換1では「中央地区の復興ビジョン」、意見交換2では前回の復興パターンから地域の方の意見を反映した「修正復興パターン」、ワーク4では「速やかに復興するために必要なこと」について、みんなで話し合いました。



※掲載スペースの関係により、すべての意見を載せてはおりません。ご了承ください。

●ワークショップの進め方・内容

- 第1回 令和8年3月25日開催 
- ワーク1 中央地区の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていること
- ワーク2 復興パターン2案について
- ワーク3 楽しくなるような未来のまちを想像する



- 第2回 令和8年7月8日開催 
- 意見交換1 復興ビジョンについて
- 意見交換2 修正復興パターンについて
- ワーク4 速やかに復興するために必要なこと



- 第3回 令和8年11月頃開催予定 
- 意見交換3 最終案について
- ワーク5 災害が起きる前からできること

各地区での第1回のご意見から復興ビジョンを3案作成し、意見交換しました。

○ワークショップをもとに考えたビジョン案

案1（第1回ワークショップで提示済み）「コミュニティ・多世代」を主軸とする案

『世代を超えてつながる 安心とにぎわいが持続するまち』

高知市中心部、都市機能誘導区域を含むエリアにおいて、職場と住まいが近接した、歩いて暮らしやすい都市構造を生かしながら、子どもから高齢者まで、多様な人たちが共に暮らせる復興を目指す。通勤や通学、買い物、医療・福祉、文化・交流の機能を身近に備えた高知市中心部に、人々のにぎわいと笑顔が自然と集まり、誰もが自分らしく、楽しく、災害に強く、安心して日常を送ることができるまちへと再生していく。

案2（ワーク1～3の意見を踏まえた案）「防災・利便性」を主軸とする案

『いつもの便利がもしもの安心へ 利便と防災が融合する災害にも強いまち』

中央地区は、路面電車や充実した周辺施設など、日々の暮らしやすさが大きな魅力となっています。普段の便利な生活を守りながら、それが災害時の安心にもつながるよう備える「災害に“も”強い」をキーワードに、普段の延長線上にある防災」を目指すものです。マンションで暮らす人も、戸建てで暮らす人も。互いの顔が見える距離感の中で、いつまでも自分らしく健やかに暮らせるまちを目指します。

案3（ワーク1～3の意見を踏まえた案）「資源・にぎわい」を主軸とする案

『歴史文化と安心を守り抜く 笑顔あふれるにぎわいのまち』

これまで大切にしてきた「よさこい祭り」や地名に宿る記憶は、地域コミュニティの絆そのものです。この大切な歴史文化を「日々の安心」という土台の上に守り抜き、次の世代へと継承していきます。商店街や市場でお買い物を楽しみ、その活気を育むことは、誰もが暮らしやすい「安全なまち」を創ることに繋がります。安心して歩ける川沿いの散歩道や、誰もがワイワイと交流できる場所をみんなで守り、笑顔がたえないまちを目指します。

○各班で議論したものを、発表していただきました！

グループ1 案2と案3を選択

- ・災害がくるのは仕方ないが、次の災害に向けて「利便」と「防災」という安心できるフレーズを入れたい
- ・地名に宿る意味を大切にしたい
- ・その場所、空間的なものを大切にしたい

グループ2 案1をベースに各視点を追加

- ・「多世代」、「コミュニティ」、「安心」、「暮らし」を重視したい
- ・「安心」は防災だけでなく、コミュニティの観点も含まれているため「防災」というワードは入れなくてもよいのではないか

グループ3 案1と案2を選択

- ・買い物、医療、福祉などの多世代が利用しやすい環境が大事である
- ・商業施設(企業)も含めての復興が大事である
- ・高齢化率が高いため、高齢者を守る支援をすることが大事である

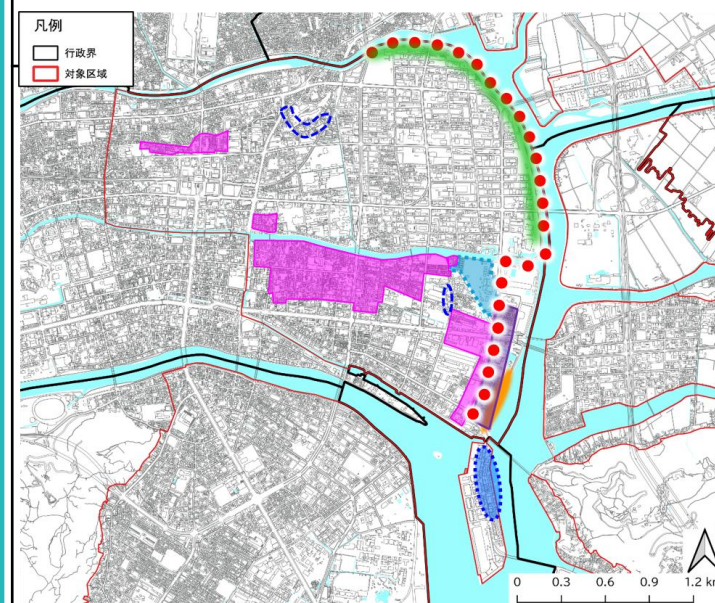


各地区の意見をまとめ、第3回ワークショップで最終的に中央地区のビジョンをお示します。

修正復興パターン2案について意見を共有しました。

【第1案】二線堤形成案

●広範囲な市街地の津波安全性の向上、二線堤を形成し広範囲に市街地を守る案



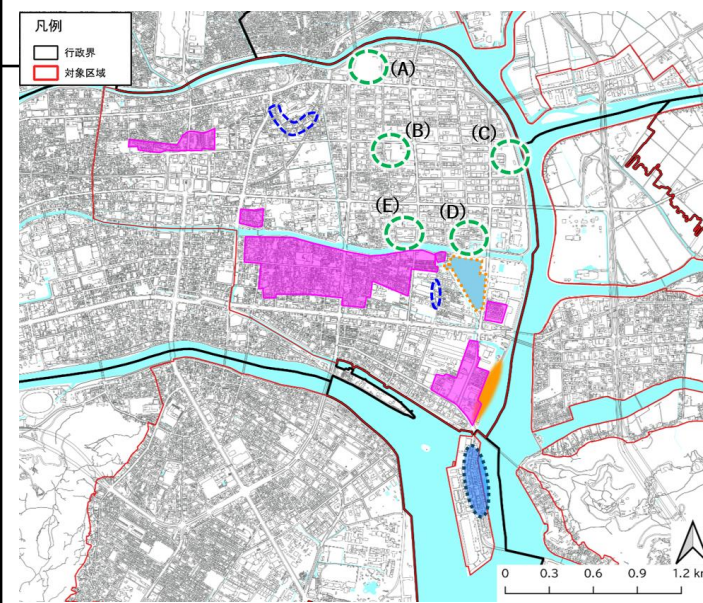
- 土地区画整理事業 道路基盤整備検討（一部範囲追加）
- にぎわい形成 二線堤を活用した、かわまちづくりの検討
- 二線堤
- 道路拡幅整備の検討
- にぎわい形成の検討 親水公園と一体的な活用の検討
- 移転元 内陸移転
- 丸池公園周辺用地の有効活用 空き家を活用した差込み移転
- 移転元地の有効活用 工業系移転候補地として活用

【第1案】

- ・二線堤は現実的なのか疑問である
- ・全体を守れるから1案の方が良い
- ・土地区画整理には、膨大な時間と住民同意、費用がかかることを住民が理解できているのか疑問である
- ・二線堤ができれば、津波が他の地区へ影響するのではないか
- ・住んでいる人の思いとしては現地で住み続けたいのではないか
- ・二線堤案を比島橋まで伸ばしたらどうか
- ・浸水を0にすることはできなくても、減衰効果で避難場所等にわざわざ行かなくても、自宅避難できるなら1案もいいと思う

【第2案】現地再建築案

●面的整備と津波避難機能の強化による安全な市街地復興を形成する案



- 土地区画整理事業（嵩上げ） 道路基盤整備検討（一部範囲追加）
- にぎわい形成の検討 親水公園と一体的な活用の検討
- 土地区画整理事業（嵩上げ）
- 公営住宅等の整備検討 丸池公園周辺用地の有効活用
- 道路拡幅整備の検討
- 防災拠点（弥右衛門公園）
- 防災拠点（北御座公園：立体都市公園）
- 防災拠点（南久保公園：立体都市公園）
- 防災拠点（札場東公園：立体都市公園）
- 防災拠点（札場西公園：立体都市公園）

【第2案】

- ・建物の影響が少ないため、弥右衛門地区のことを考えると2案がいいのではないかと
- ・建物の上に公園ができることは良い
- ・2案がより現実的ではないかと



【その他の意見】

- ・できるだけ復興期間を短くしたい
- ・1案と2案を合わせていいとこどりしたらいい
- ・計画を作っても反対があってもなかなか事業が進まないのではないかと
- ・比島の道路拡幅について、補償があるのか

